

羽村市史編さんだより

平成29年10月

第11号

# 伸びゆくはむら

特集

2

樹木が受け継ぐ物語

- 1 News
- 3 部会の手帖
- 5 市史編さんの足あと
- 5 コラム「ちっとんべえ」





# N e w s

## 第7回羽村市史編さん委員会を開催

9月29日（金）に市役所で第7回羽村市史編さん委員会が開かれました。会議では、平成29年度上半期の事業の進捗状況や下半期の事業計画の報告があり、順調に進捗していることが確認されました。

また、平成30年3月に刊行予定の『羽村市史 資料編 近現代図録』『羽村市史 資料編 中世』についてや、平成30年度に刊行予定の資料編について協議されました。出された意見をもとに、より見やすくわかりやすい資料編の刊行に向けて、鋭意取り組んでいきます。

会議録は、市史編さん室および市公式サイトで公開しています。ぜひ、ご覧ください。



▲第7回羽村市史編さん委員会の様子

## 明星大学の学生がインターンシップ

明星大学の学生2人が、8月1日（火）～7日（月）に市史編さん室でインターンシップを行いました。

遺物調査のデータ入力という地道な作業でしたが、2人ともやり方を工夫して仕事の効率を上げるなど、5日間一生懸命仕事に励んでいました。

将来の仕事に直接は関係なくても、働くことのイメージが少しはつかめたのではないのでしょうか。



▲インターンシップの様子

## 市総合防災訓練で資料持出し訓練

9月3日（日）に行われた羽村市総合防災訓練で、市史編さん室では、市史編さん関連資料の安全確認と待避訓練を行いました。待避させる資料の選定や待避場所への移動方法の検討など、非常に有意義な訓練となりました。



▲資料持出し訓練の様子



## 表紙の写真 緑地はオアシス

羽加美緑地を訪ねたら、保育園の園児たちが散歩に来ていました。「どんぐり見つけたよ！」「きれいな実あげる！」「あっちに行ってみよう！」と、緑地内を駆けまわって全身で楽しむ子どもたち。

緑地へ出かけてみませんか。一歩足を踏み入ると空気が変わり、気持ちが良いものです。ただし、私たち人間だけでなく虫や鳥のオアシスであることもお忘れなく。蚊の恰好の餌食とならないように対策が必要です。

# 樹木が受け継ぐ物語

## ●市内の緑地

市内には多摩川の流路に沿うように帯状の緑地が残っています。緑地は、階段状の地形の斜面にあり、この斜面を「崖線」、斜面に残る緑地を「崖線緑地」と呼びます。

崖線は、文字どおり崖に近い地形ですので、その多くは宅地化などの土地利用には少し不向きです。そのため、帯状に緑地として残っているのです。

市内には、小作台から羽西、羽加美にまたがる小作緑地公園～グリーントリム公園～羽加美緑地は広大な緑地帯、羽東の稲荷緑地は羽村一中から羽村東小まで細長く続く緑地、神明台には工業団地の南側に水木公園として緑地が残っています。

## ●緑地の過去・現在、そして未来

これらの緑地内の樹木は、かつては、薪炭林（薪や木炭など燃料として用いられる広葉樹で構成される林）として利用されていました。しかし、時代とともに薪や木炭の利用がなくなり、林に手が加えられなくなったことで現在のようになりました。

現在はというと、主にコナラ・クヌギ・エゴノキなどの「落葉広葉樹」だけでなく、アラカシ・シラカシ・ヤブツバキなどの「常緑樹」や、アカマツ・スギ・ヒノキなどの「針葉樹」も見られます。

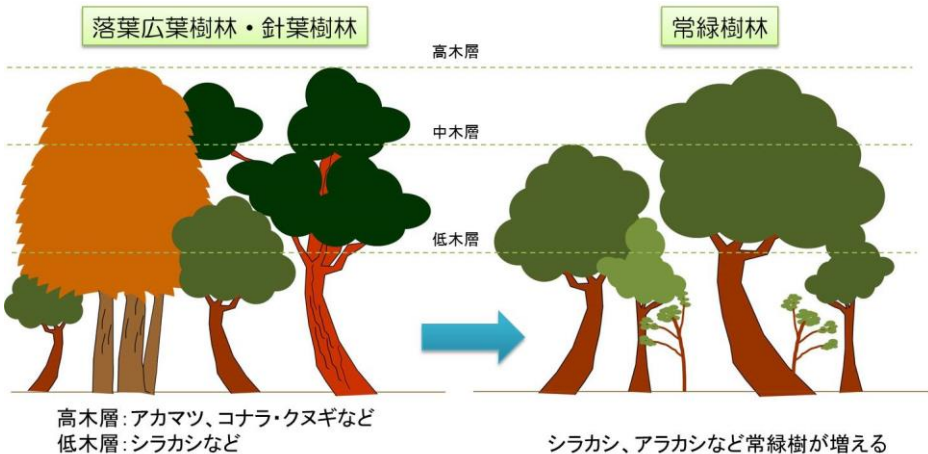
小作緑地を例にすると、現在、高木層にコナラ、低木層にシラカシ・アラカシなどのカシ類が多くあります。このままいくと将来的には、コナラに代わりシラカシやアラカシが高木層になり、シラカシ・アラカシ林に遷移していくと考えられます。（下図）

## ●いこいのスポット

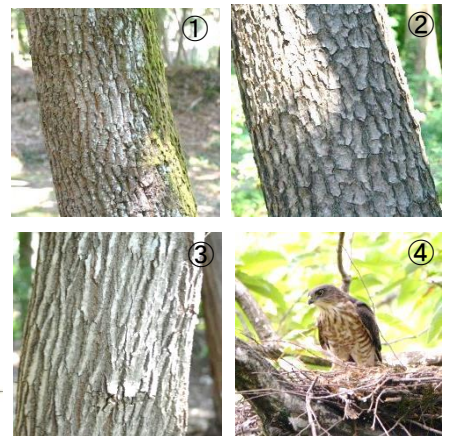
これからの季節、緑地内の樹木は、私たちに紅葉を楽しませてくれます。緑地は、子どもたちの遊び場や市民の憩いの場になっていますが、緑地は私たちだけのものではありません。ここには、樹林地に生息する鳥類、アオゲラやコゲラなどキツツキの間やツミなどの猛禽類が確認されています。

これらの鳥は、住宅地などでも観察されますが、市内の緑地にも繁殖に適した大木や餌場が整っていることと関係しているでしょう。今年もツミがアカマツで営巣していました。最近ではコナラに営巣する個体も観察され、これからはアカマツに代わり、大木になったコナラやクヌギで巣立つツミの姿が見られるでしょう。

私たちは一生のうちに樹木の魅せる物語を見届けることはできませんが、緑地はこの壮大な物語の一瞬を観察できる注目すべきスポットです。



▲植生遷移の模式図。小作緑地の現在を模式的に示すと上左図であり、将来的にはシラカシ・アラカシ林（上右図）に遷移していく。



▲木の幹を比べて見分けるのもおもしろい。①はクヌギ②はアカマツ③はコナラ。④はツミの巣立ちのころの様子。（コナラ樹上）



# 部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。  
※7～9月の活動をお知らせします。

## 用語の解説

てんめいいき  
天明一揆…1784年、羽村の名主を中心に近郷村を巻き込み、狭山地方の豪農の蔵などの打ち壊しを行った。

はっとりしろう  
服部四郎…(1908～1995)日本の言語学者。日本語・モンゴル語を中心としたアルタイ諸言語の研究など多くの業績を挙げた。

## 第1部会 ～原始・古代・中世～

『羽村市史 資料編 中世』の原稿を印刷業者へ入稿しました。羽村に関連する編年史料（古文書や文献など）と市内に残存する石塔類が集成されています。今後、羽村市史編さん委員会での意見聴取・確認などを経て、来年3月に刊行予定です。また、未調査資料の補足調査を行いました。

縄文班では、入力された出土遺物のデータや住居址の実測図をもとに、本格的な接合関係の分析作業を進めています。



▲調査の様子

## 第2部会 ～近世～

市内調査以外にも、市外における市域関係史料の調査を進めています。今回の調査では、羽村市域で後世にも影響を与えた天明一揆に関する史料調査を行いました。

天明一揆前後の社会情勢や被害を受けた村で作成された史料など、各地で作成された史料を基に当時の状況を確認しています。

また、羽村市域の史料についてもマイクロフィルムやデータ化した史料を確認しながら筆耕作業を進めています。



▲マイクロフィルムの確認作業の様子

## 第3部会 ～近代・現代～

『羽村市史 資料編 近現代図録』で使用する写真の確認や不足写真の入手、構成・テーマについても議論を重ね、原稿を印刷業者へ入稿しました。

また、戦中・戦後に服部四郎氏の疎開先となった家の方の聞き取りや、戦後に羽村の青年たちにより結成され農業技術の向上などに努めた「青新会」に関する聞き取りを行い、戦前から戦後の羽村のいろいろなエピソードを伺うことができました。



▲聞き取りの様子

## 第4部会 ～自然～

気候班は夏の気象観測を2回行いました。7月30日の観測が曇天であったため、9月8日に再チャレンジしました。今年は夏らしい気候に恵まれず残念でしたが、曇天の記録として解析していきます。

地形・地質班は現地調査とボーリング資料の解析を進めています。

生態班は6月から哺乳類調査のためにセンサーカメラでの撮影を始め、順調に撮影を続けています。



▲気象観測の様子

## 第5部会 ～民俗～

今夏も、9月上旬に3日間の市内合宿調査を行いました。今回は、35の方に貴重な話を伺うことができました。ご協力ありがとうございました。今後も、個別に話をお伺いさせていただく予定です。

また、埼玉県越生町西和田地区の天王神輿について、羽村と関係があるとの情報が寄せられ、確認してきました。詳しいことは調査中ですが、羽村と他地域とのつながりを考察するうえで、貴重な資料の発見となりました。



▲越生町での神輿の調査の様子

# 市史編さんの足あと



※①～⑤は部会の数字です。(例) ① ⇒ 第1部会

月	日	できごと
7月	15日(土)	羽村市史編さんだより第10号発行
	27日(木)	② 市外史料調査(武蔵村山市)
	30日(日)	④ 気温の移動観測・風向風速の観測・水温観測
8月	1日(火)	② 市外史料調査(東京都水道歴史館)
	1日(火)～7日(月)	明星大学学生インターンシップ
	7日(月)	③ 市内聞き取り調査(個人宅)
	9日(水)	③ 市内聞き取り調査(個人宅)
	10日(木)	① 市外資料調査(青梅市武蔵御嶽神社ほか)
	15日(火)	④ 礫層調査(市内)・礫調査(青梅市)

月	日	できごと
8月	26日(土)	⑤ 市外資料調査(埼玉県越生町)
9月	1日(金)	①③ 資料編原稿入稿
	3日(日)	市総合防災訓練(資料持出し訓練)
	3日(日)～5日(火)	⑤ 市内合宿調査
	7日(木)	① 市外資料調査(青梅市)
	8日(金)	⑤ 市内聞き取り調査(個人宅) ④ 気温の移動観測・風向風速の観測・水温観測
	19日(火)	④ 気温観測データ(定点)の回収 ④ 礫層・礫調査(市内)
	29日(金)	第7回羽村市史編さん委員会 ④ 礫層・礫調査(市内)

## コラム

## ちっとなべえ

市史編さん室には2台の電動アシスト自転車があります。市内の調査では小回りを利かせる必要があるため、自動車より自転車の方が便利な場合があります。しかし、坂の多い羽村市のこと、普通の自転車では、「行きはよいよい、帰りはつらい」となってしまうので、電動アシスト自転車を導入しました。

さすがにその威力は抜群です。さっと出ることができるので、機動力が増しました。奈賀地区や美原地区へはもちろん、小作地区での調査などにも気軽に行くことができます。電動アシスト



▲専門調査員と電動アシスト自転車

## 第11回 「電動アシスト自転車」

のおかげで、まさに「行きはよいよい、帰りもよいよい」です。羽村市役所では、市史編さん室での導入後、さらに2台の電動アシスト自転車を配置しました。計4台の電動アシスト自転車は、羽村市役所で実施している省エネ活動などにも貢献しています。

市史編さん室の2台の電動自転車には、区別するために名前を付けました。「1号」「2号」でもよかったのですが、少し遊び心をもってドイツとイタリアの高級自動車メーカーの名前にしました。市史編さん室では、「ポ・・・空いてる?」とか「フェ・・・で行ってくる。」なんて会話が飛び交っています。

いよいよ、来年3月には市史編さん事業の最初の成果としての資料編が刊行される予定です。市史編さん室でも段々と緊張感が増して行く中、こんなことで堅い空気を柔らかくしています。(M.M 記)

※「ちっとなべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。